



Title	シェイクスピア劇の仕掛け : 「十二夜」の2人の女性
Author(s)	宮下, 弥生
Description	上 : 2010年9月14日夕刊掲載 下 : 2010年9月15日夕刊掲載
Citation	北海道新聞
Issue Date	2010-09-15
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/43947">https://hdl.handle.net/2115/43947</a>
Rights	北海道新聞社許諾D1009-1103-00006831 本著作物は、北海道新聞社の許可のもとに掲載しています。
Type	article
File Information	miyashita_1.pdf, 上



# シェイクスピア劇の仕掛け

## 「十二夜」の2人の女性

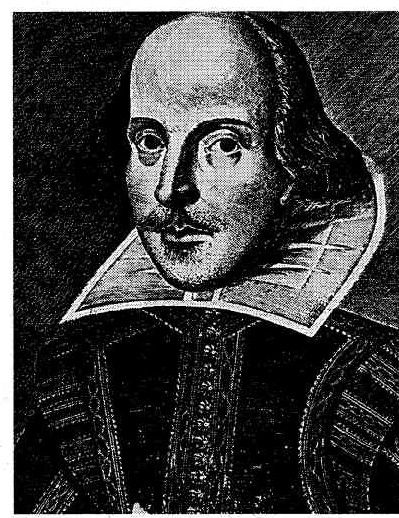
<上>

宮下 弥生

人の女性の描かれ方に見て  
みることにしたい。

シェイクスピアの作品を  
読んでみると、彼が作品を  
書いている時、その頭の中  
では一体何が起っていた  
のだろうかいつも思ってい  
ます。登場人物の一人があ  
る科白を話せば、別の登場  
人物がそれに応えて自分の  
科白を話す。そうやって一  
つの作品が紡がれていくの  
だが、そこには計算された  
仕掛けが幾層にも、時には  
ほとんど気付かれないほど  
微細に、仕組まれているの  
である。2回にわたり、そ  
の仕掛けのほんの一端を喜  
劇「十二夜」に登場する2

アへの使者がその返事を携  
えて戻ってくる。  
ヴァレンタイン 実は、  
公爵、お目ごおりを許さ  
れませんが、小間使い



シェイクスピア

# オリヴィアの涙 恋愛求める偽りの哀しみ



みやした・やよい 北  
大大学院文学研究科助  
教。福井県生まれ。札幌  
西高、北大文学部卒、北大

大学院修士課程修了、同  
博士課程単位取得退学。  
北大文学部助手を経て現  
職。シェイクスピアを扱  
った英文論文はすべて  
World Shakespeare  
Bibliography Online  
に登録され、国際的な評  
価を得ている。

「十二夜」はイリアアの  
公爵オーシーノーが女伯爵  
オリヴィアを想う科白から  
始まると、直後、オリヴィ

のかたからご返事をうか  
がってまいりました。/  
オリヴィア様には、今後

## オリヴィアの涙

そして、当の本人がおそ  
らくは喪服をまどって登場  
するのは1幕5場である。  
しばらく屋敷を留守にして  
いた家来の道化(fool)に  
ご機嫌斜めのオリヴィ

七年のあいだ、太陽にさ  
え／そのお顔をあらわに  
はお見せにならぬご決心  
とのこと。／修道尼のよ  
うにヴェールに面を包  
み、日に一度、／静かに  
お部屋を歩かれて、目を  
腫らす涙ですみずみまで  
／洗い清めるおつもりと  
か。これもひとえに／亡  
くなった兄君へのご愛  
情、涙を注いでいつまで  
も／悲しい思い出を枯れ  
させまいというお気持ち  
なのです。(引用はすべ  
て、白水Uブックスの小  
田島雄志訳「十二夜」よ

ア、2人のやりとりを見て  
みよう。  
道化 これはこれはお嬢  
さん、ご機嫌よろしゅう。  
／オリヴィア 阿呆(fool)をあっちへ連れ  
ておゆき。／道化 おい、  
聞かえないのか、お嬢さ  
んをあっちへお連れする  
んだ。……／オリヴィア  
私が連れていけと言っ  
たのは、おまえのことよ。  
／道化 こいつはとんで  
もない大間違い！……ね  
え、お嬢さん、あなたが  
阿呆だつてこと、証明し  
てみせようか。……／オ

嘆くことはあるまいに。  
おい、この阿呆を連れて  
ゆけ。  
シェイクスピア劇に登場す  
る道化(fool)は貴族  
お抱えの家来で、現状を的  
確に判断し、言いたくいと  
も機智のオブラートに包  
んで主人のために話す賢者  
である。道化は、兄の喪に  
服しているオリヴィアこそ  
阿呆(fool)だと言っ  
たのは、そろそろ喪に服する  
のはやめたらと勧める思い  
やりを頓知に隠しているの  
である。一方のオリヴィア  
自身の言葉「ほかにうさば  
らしないことだし」や、  
兄の死をネタに自分が阿呆  
であることを証明されてあ  
きれ顔であるところを見る  
と、その「深い哀しみ」に  
は疑問が生じてくる。  
戻って、冒頭の小間使い  
からの返事を見てみよう。  
原文はもってまわった仰々  
しい詩的な表現に溢れてい  
る。涙のことを「目を傷付  
ける塩水」と表現し、日に  
一度、お兄様を思って部屋  
を歩き、泣くつもりだとい  
う不自然さも手伝って、こ  
の返事がオリヴィアの真摯  
な心のあり方を示している  
とは考えにくい。オリヴィ  
ア自身の認識では兄の死を  
悼んで恋愛を遠ざけている  
のだが、劇の仕掛けとして  
は逆にその気持ちが本物で  
ない可能性を示唆してい  
る。劇の仕掛けとしては、  
オリヴィア自身の認識とは  
別に恋のお話を始める準備  
を行ってきたのである。  
そして実際、新しい恋の  
相手が登場するや、オリヴィ  
アは恋に落ちてしまう。  
もう一人の主人公ヴァイオ  
ラは難破してイリアアの海  
岸に打ち上げられ、男装し  
てオーシーノーに仕えるこ  
とにする。オーシーノーに  
気に入られたヴァイオラ  
は、その恋の使者としてオ  
リヴィアを訪れたのだつ  
た。